

全建だより

No.2

平成24年12月17日

トピックス

■ 新湊大橋の開通について (富山新港管理局)

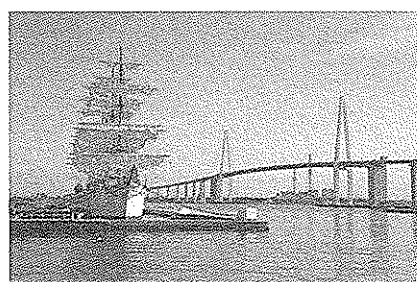
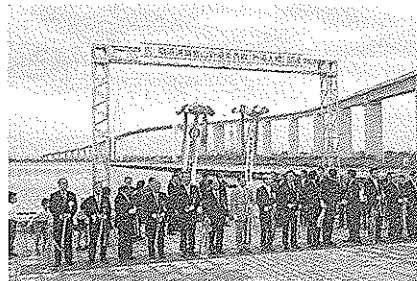
臨港道路富山新港東西線【新湊大橋】が、平成24年9月23日に開通しました。

新湊大橋の主橋梁部の延長は600メートル、橋を支える主塔の高さは127メートルで、海拔およそ50メートルに車が通る2車線の道路がある5径間連続複合斜長橋です。(主径間鋼製、側径間PC)

車道の下に自転車歩行者道(愛称:あいの風プロムナード)を配置した2層構造です。自転車歩行者道は全天候型で、エレベーターで昇降します。現在、強風による揺れ対策工事中で、来春に供用開始の予定です。

新湊大橋の開通により、東西地域の人や物の流れの円滑化・効率化が図られ、帆船海王丸とともに地域のシンボルとして観光振興など、さまざまな効果が期待されます。

今後は、「新湊大橋の維持管理施設の拡充」、「新湊大橋周辺の整備」に努めていきます。



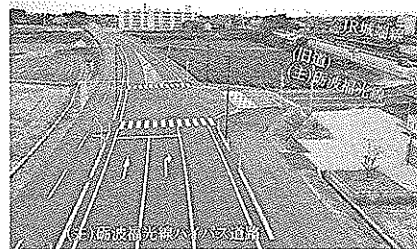
■ 主要地方道砺波福光線バイパス道路の開通 (砺波土木センター)

主要地方道砺波福光線は、砺波市を起点とし、南砺市福野を経由して南砺市福光に至る道路で、国道156号と304号を結ぶとともに、北陸自動車道砺波ICや東海北陸自動車道福光ICにアクセスする重要な幹線道路です。

しかしながら、南砺市寺家地内~田尻地内に至る区間は、車道及び歩道の幅員が狭く、JR城端線に近接して並走しているため踏切部に停車スペースがなく、安全かつ円滑な交通が確保されていない状況となっていました。

このため、県では平成14年度にバイパス道路の整備に着手し、この度、約10年の歳月をかけて工事を完成し、平成24年10月2日に華々しく開通式を行いました。

本区間の開通により、南砺市の合併支援道路として安全で円滑な交通が確保されるとともに、砺波地方生活圏の産業・経済・文化の発展に大きく寄与するものと期待されます。



平成24年度 とやま土木の日の開催について

とやま土木の日は、県建設技術センターの後援も得て、11月16日金曜日、会員はじめ立山砂防女性サロンの会や富山国際大学の学生等、110名余が参加して盛大に開催されました。

記念講演は、富山駐屯地司令小竹義之氏より「東日本大震災における自衛隊の活動について」と題し人命救助や各種慰問活動、あるいは将来に向けた取り組み状況を、また(株)深松組社長深松努氏より「東日本大震災で得られたこと」と題し被害状況や災害復旧経過を紹介いただき、また、我々が近い将来発生する大災害に対し早急に備えるべきことは数多いことをご教授いただきました。

また、建設技術発表会は7名の会員による研究成果の発表及び質疑応答、ロビーでは建設フォトコンテストの作品も展示されました。



陸上自衛隊第382施設中隊長 小竹義之氏



(株)深松組 代表取締役社長 深松努氏

記念講演会や
建設技術発表

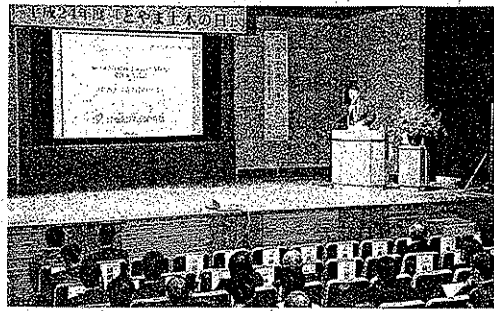
とやま土木の日

18日の「土木の日」を前に、県建設技術協会は16日、富山市宝町の明治安田生命ホールで「とやま土木の日」と題した記念講演会と建設技術発表会を開いた。

約130人が出席。東日本大震災をテーマに陸上自衛隊富山駐屯地の小竹義之司令と深松組（仙台市）の深松努社長が記念講演し、写真、被災地における自衛隊活動や復興に向けた取り組みなどについて話した。深松社長は「建設資材の需要に供給が追いつかず、高騰している」と現地の

状況を報告した。発表会では、橋梁の架け替えや耐震補強工事について、県内の各土木センターが説明した。

「とやま土木の日」は、建設技術者の技術向上を図ろうと、同協会が毎年開いている。



建設工業新聞 2012.11.17

県民の期待へ技術研ぎを

「とやま土木の日」記念行事

県建設技術協会

講演、研究発表会に130人

県と県内市町村（富山市、高岡市除く）のOBを含む建設技術職員からなる、富山県建設技術協会（会長・林正之富山県土木部次長）は16日、富山市の明治安田生命ホールで、12年度「とやま土木の日」の記念行事を開催した。

この日は職員のほか、一般や学生ら130人が参加。開会に当たり、林会長が「本日の講演は、東日本大震災の現場対応に当たられた皆様の貴重な体験が伺えるものと期待している。建設技術研究発表会では、日ごろの計画調査、現場監督の中で研究、実践してきた成果を大いに発表してほしい」と述べるとともに、層努める必要がある。本日の機会などを有効に活用し、技術の研ぎを促すには、緊急時の対応や技術の向上に、より一



東日本大震災に関する講演などが行われた記念行事

午前は、陸上自衛隊第382施設中隊長兼富山駐屯地司令の小竹義之氏が、「東日本大震災における自衛隊の活動について」、深松組の深松努代表取締役社長が、「東日本大震災で得られたこと」を演題にそれぞれ講演した。

午後からの建設技術研究発表会では、①立山・黒部の世界文化遺産登録に向けて「新たな砂防施設の重要文化財指定への取組み」、②山形県副県土木部砂防課技師② 県道守山向野線「上橋」における橋梁復旧工事について③開口高志高岡土木センター主任③雨量通行規制区間および基準の見直し④牧野哲博砺波土木センター係長④富山空港における空港管理業務

午後からは、富山県建設協会主催の11年度「とやま建設フォトコンテスト」の作品もパネル展示された。写真。

なお、記念行事の共催は県土木部、後援が県建設技術センター。

